

藤並の森

vol.90
2020.8

リレー隨筆

スポーツと文学

清原 泰治

それまでに感じたことのない強い感動だった。山際淳司氏の「江夏の21球」。1979年11月4日、プロ野球日本シリーズ第7戦。広島東洋カープのリリーフエース・江夏豊投手が投じた21球にまつわるドラマが、スピード感あふれる文章で再現されていた。スポーツを言葉で伝えることの魅力を知った。後に、それはNHKのドキュメンタリー番組になるのだが、文字によって表現される人の心の様は、映像によるそれを凌駕していた。文学は映像を超えてられると思った。

プロ野球でもそうなのだから、4年に一度のオリンピックやパラリンピックは、まさに「ドラマの宝庫」である。「世界新記録」の瞬間に立ち会えば、それはもちろん見る人を熱狂させる。でも、少し遅れて新聞やスポーツ雑誌で知ることになる、記録の向こう側にある人間ドラマの感動は、読む者のモチベーションや生き方に影響するほどの力を持つ。超人的な努力、それを支える家族や恋人、国の抱える問題や差別などのさまざまな障害を乗り越える心の強さ、そして、運。

片岡寅次郎さんに小津町のご自宅でお目にかかったのは1995年。1936年のベルリン五輪水球日本代表。旧制中学時代、365日鏡川で泳いだという努力家。世界最強のドイツチームから、左手ショートで一点を挙げたことを淡々と語る言葉から、彼の誇りを感じ取った。

モントリオール五輪陸上100メー

トル代表の神野正英さんは大阪の自家で、夜通し、お話を伺つた。日本選手権100メー

トル優勝7回。「生まれ変わつてきても、あれだけの実績は残せないだろう」という言葉から、その偉業の重みを知ることができた。

ヘルシンキ五輪背泳代表の西野恭正さん。日本選手権で3連覇した1948年、その年のロンドン五輪に、敗戦国の国民ゆえに参加できなかつた悲運のスイマー。いつたんは夢を捨てたが、あきらめきれずにカムバック。開会式の日付がある手記には、オリンピックの理想である平和と友愛への想いが綴られていた。

これまでにお目にかかつてききたオリンピック選手のことを思い出しながら、高知県立文学館で開催されている「スポーツと文学」作



スポーツと文学 展示の様子

(高知県立大学教授)

家がとらえた躍動の一瞬。物語る文学」の展示を見た。アスリートたちのパフォーマンスと言葉は、間違いなく人を感動させるが、文学者たちの筆になると、その感動はさらに増幅されてしまう。これまでになかった視点から、限界に挑む人間の底力を知ることになる。そう、「江夏の21球」を読んだ時のようだ。

ULTRAMAN ウルトラヒカツワールド

空想特撮大作戦 くうそうとくさつ

～ウルトラマンと夢見る未来～

令和2年 7/4(土)～9/6(日)

午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

7月4日(土)から開催した展覧会「空想特撮大作戦」が9月6日(日)に閉幕しました。円谷プロダクションの作品を通して、空想する楽しさを紹介しました。本展、残念ながら体験型の展示は出来ませんでしたが、展示壁を作らず空気の流れを良くし、自宅でも楽しめる「空想特撮手帳」を配布するなど、触らずに楽しめる工夫を施しました。

ロビーには「レッドキングにスペシウム光線を撃とう!」「コーナー」や「ウルトラセブンvs宇宙ロボットキングジョー」など迫力あるジオラマが登場。フォトスポットとして楽しんでいただきました。



別に作られたジオラマなど約165点の貴重な資料が展示され、普段は見ることの出来ない想像が創造に変わる過程を堪能できる空間となりました。あわせて、国撮影に使用された造形物、特別に熱狂的なファンを持つFFIギュアメーカー・海洋堂にもご協力いただき、約80点の多彩なフィギュアを展示しました。

展示の最後には、ウルトラマンと一緒に未来を見つめ、夢を描けるよう、メッセージを書ける参加型のコーナーを設けました。



展示の様子。床には怪獣ゴモラの足跡でソーシャルディスタンスを表した。

最後になりましたが、本展開催にあたり、マスクの着用、手指の消毒等にご協力いただきましたお客様、新型コロナウィルスの多大な影響下においても「子どもの大夢を後押しできる大人でありたい」と格別のご協力を賜りました円谷プロダクション様、海洋堂様、関係各位に厚く御礼申し上げます。

(学芸課／福富陽子)

いきたい」・「会期中、未来への希望にあふれるメッセージが寄せられました。

円谷作品は私たちに多くのことを教えてくれますが、人間の空想力を想像力が信念をもって形を成すとき、たくさんの人々に夢や喜びを与えるということをも教えてくれています。

空想は、思考力・判断力・表現力を育む我々の大切な能力であり、創作の原点ともいえます。文学館では、今後も多彩なアプローチで、豊かな企画展を開催していくべきだと思います。



展示の様子



川端康成草稿
「一草一花」(下部)

（作家がとらえた躍動の一瞬。物語る文学）」は、会期を2回に分け、展示をいたします。前期のオーディンピックに焦点を当てた展示については、好評につき、来年3月21日（日）まで展示期間を延長し、より長くみなさんに見ていただけます。

展覧会では、スポーツ史年譜、オリンピック各大会の歴史を振り返るパネルや写真、作家たちの観戦記などを紹介しています。

また、1964年
年の東京大会を
深く掘り下げた
コーナーを設け
ました。ここでは

ゼルス五輪動画など、引き続き展示する資料もございますので、まだという方は、ぜひご覧ください。

なお、後期の「物語られたスポーツ」は来年4月からの展示となります。こちらもお楽しみに！

火写真など、東京大会に沸く高知のようすを写真パネルで紹介しています。また、東京大会のマラソンで2位となつた円谷幸吉の最期の手紙について触れた川端康成の筆原稿もご覧いただけます。

宮尾さん愛用の着物
今春、宮尾登美子さんのご遺族から着物やハンドバッグなど、愛用の品々26点が寄贈されました。

宮尾さんと言えば美しい着物姿を思いうかべるファンの方も多いようだ。様々な場面で着物を着用するとともに、多くの作品の中でもつわる思い出を書き残してきました。

桜模様の訪問着や、大きな講演の際によく着ていたという辻が花の訪問着、直木賞受賞決定の記者会見で着用した着物など、それぞれ宮尾さんの作家生活の思い出がつまつた着物たちです。

(学芸課／岡本美和)



記者会見に着用した着物と愛用の品々

常設展企画コーナー

スポーツと文学

好評につき
期間延長します!!

清岡卓行・三島由紀夫ら作家たちのオリンピック観戦記をはじめ、映画「東京オリンピック」制作に関するわった安岡章太郎の著書や、オリンピック

宮尾文学の世界室

め、宮尾さんは、一着一着の思い出とともに着物を大切にされてきました。

今回ご寄贈いただいた着物は、宮尾さんが「お母さん」とも「人生の先達」とも慕つていた作家・宇野千代さんから贈られた

自伝的作品『朱夏』に詳しいよう
に敗戦後満州で暴民に襲われ、着物
を含めた持ち物すべてを失い、着の
身着のままで1年間の難民生活を
送った宮尾さん。引き揚げ後、夫の
姉に譲られた着物を自分で染めて再
生し、深い愛着を抱いて着てきました
ことをエッセイに綴っています。

常設展 虫めがね

シリーズで変わる常設展を紹介！

常設展示「反骨の大衆文学」コーナーを 田中貢太郎から黒岩涙香へ入れ替えました。

黒岩涙香は文久2(1868)年に安芸郡川北村(現・安芸市川北)に生まれました。大阪英語学校、次いで東京で学ぶも中退。丸善、東洋館などで洋書を取り寄せて読み破し、独学で抜群の英語力を身につけました。後年、今に残る名訳『噫無情』『巖窟王』を完成。その名は近代文学史上に燐然ときらめいています。

新聞記者として活躍していた涙香は、当時ほとんど翻訳されていなかった海外の探偵小説に目をつけ、明治21(1888)年1月から「法廷の美人」を『今日新聞』に連載、好評を博します。涙香訳の翻案探偵小説は、読者に大いに歓迎され、以後『今日新聞』(都新聞)や『絵入自由新聞』などに途切れることなく連載。明治26年をピークに

探偵小説は一大ブームとなりました。これまで日本にはなかつた探偵小説を広く大衆の読物として普及させた功績から、涙香は「我が国探偵小説の元祖」と呼ばれています。

また、明治25(1892)年、自身の新聞社を立ち上げ、「万朝報」を創刊。簡単・明瞭・痛快をモットーとし、社会悪に

対して徹底的に迫及する姿勢と、涙香の翻案小説の人気によって急速に発展、明治32(1899)年末には発行部数が東京の新聞中1位に達しました。

「相馬事件」や「蓄妾の実例」などセンセーショナルな記事が注目されることは多いのですが、これらの記事は社会的弱者や女性の意識向上を目指す新聞人・涙香の一貫した姿勢に基づいており、「万朝報」は徹底的な反権力、大衆への文学の普及、英文欄の創設、「理想団」の結成など近代日本新聞史上、大きな足跡を残しました。

本コーナーでは、裁判小説『人耶鬼耶』『片手美人』などの初版本や、『噫無情』『巖窟王』の舞台であるヨーロッパ各地の紀行文『南欧游草』草稿など貴重な資料を紹介しています。土佐が生んだ明治の巨人・黒岩涙香の軌跡をご覧ください。



展示の様子

常設展示「自由民権」コーナーを 坂崎紫瀬から田岡嶺雲へ入れ替えました。

田岡嶺雲は、1870(明治3)年、土佐藩輕格田岡享一(典臣)の三男として土佐郡旭村石井(現・高知市赤石町)に生まれました。

幼少時より自由民権運動の感化を受け、10歳頃には高知新聞を自ら購読したり、政談演説会の演壇に立つなどしました。

1883(明治16)年、官立大阪中学(旧三高、京都大学の前身)に入学しますが、中学校は官制改革による軍隊化と学生への圧制が強化されるようになります。嶺雲は抵抗のため、しばしば監禁されます。これがきっかけで胃病となり中学を中退、郷里で入院します。

1891(明治24)帝国大学文科大学(現・東京大学文学部の前身)の漢文科選科に入学。卒業後は、同窓であった山縣五十雄の誘いで



展示の様子

雑誌「青年文」を創刊、主筆となります。この雑誌では、社会評論のほか、文芸・作家評論などを展開。樋口一葉や泉鏡花の才能をいち早く認めました。

また、ジャーナリズム、中国文学翻訳、文芸評論など、多岐にわたる著作活動をつづけた田岡嶺雲の足跡をご覧ください。(学芸課／野々村昭美)

「戦袍余塵」や、官吏侮辱罪で下獄した時のことを書いた「下獄記」などを著します。

1907(明治40)年、脊髄癆悪化

により中国より帰国。以降は姫路など国内で筆を執り、1912(大正元)年9月、日光の大谷川畔の寓居で死去するまで作品を書き続けました。

嶺雲は、鋭い視線で社会を見つめ、経済的な弱者の立場に立った論評を展開しました。

著書が発禁に次ぐ発禁という不幸に見舞われながらも、筆を折ることはありませんでした。病と闘いながら40年の生涯を回顧して執筆された『数奇伝』は、明治期における優れた病床文学。自伝文学となつており、海外研究者からも高い評価を得ています。

本コーナーでは、『壺中觀』(発禁の跡が残る)をはじめとする発禁本や、『数奇伝』などの著書、親交のあった三宅雪嶺からの書簡、自筆原稿などを展示しています。

ジャーナリスト、中国文学翻訳、文芸評論など、多岐にわたる著作活動をつづけた田岡嶺雲の足跡をご覧ください。(学芸課／野々村昭美)

「天誅（組）」が

当館に寄贈となりました

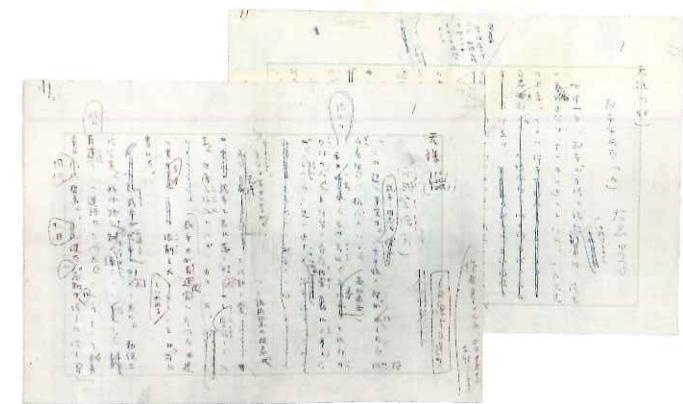
このたび、大岡昇平の大変貴重な自筆資料が寺内敏夫氏より当館に収蔵されました。大岡は東京都出身、感傷を交えない明晰な視点の歴史小説に定評のある作家で、土佐ものとして『天誅組』『堺港攘夷始末』などの作品があります。この資料は、最初に黒潮町の上林曉文学館に寄贈の話が来て、松本館長のご判断により、当館へと寄贈されることになりました。

草稿には「天誅」というタイトルが記されていますが、内容は同名の短編ではなく、長編『天誅組』の一節です。

『天誅組』は、土佐藩を脱藩した吉村虎太郎をはじめとする攘夷派浪士らの天誅組を書いた作品で、「産経新聞」朝刊に1963（昭和38）年11月18日～1964（昭和39）年9月25日まで連載されました。当館に寄贈された草稿は「武市半平太（九）と公子登場（六）」の分で、新聞連載は昭和39年2月下旬～3月上旬からその9年後にも『堺港攘夷始

い、原稿の数は各四枚ずつあります。いずれもかなりの加筆修正があり、こだわりの強い大岡の性格を窺うことができます。さらに、この草稿と『大岡昇平全集』に掲載された『天誅組』を比較すると異同が見られますので、この後も修正されたことがわかります。

『大岡昇平集』の年表によれば、『天誅組』を構想したのは昭和23年、取材を始めたのが昭和37年で、昭和38年9月には吉村虎太郎の故郷である高知県梼原町を訪れていました。詳細な土佐の描写は熱心な取材に裏打ちされているのでしょう。



「天誅（組）」原稿

末』の取材のために高知を訪れていますが、その際の高知の郷土史家・吉村淑甫氏とのやりとりは、当館所蔵の大岡の吉村氏にて書簡からも知ることができます。

大岡にとって幕末の土佐は、『天誅組』執筆で完結せず、ずっと追いかけ続けたテーマであったかもしれません。今後この資料を当館でも展示する予定ですが、大岡の熱い執筆意欲を、ぜひ直筆原稿から感じていただきたいと思います。

（学芸課／川島楨子）

高知県立文学館のHPでは、「文学館について」の「高知と文学者たち」というページで50名を超える顕彰作家を紹介しています。このたび、より皆さんにわかりやすく、深い情報を伝えするため、今年度中をめどに、HPの内容を充実します。

主な変更は2点です。

- ①作家の略年譜を追加し、おもな著作の紹介を増やします
- ②寺田寅彦・宮尾登美子について、新しくページを設け、より詳しく紹介します

さらに、少しずつ資料や作品紹介のページを追加していく予定です。

高知の作家は、作品も、人間的にも、魅力的な人がたくさんいます。みなさんに高知の作家をもっと知つてもらいたい」という一心で、職員が現在鋭意努力して作家情報を作成しています。来年春頃までは充実した作家のデータが揃う予定ですので、気になる作家が見つかりましたら、ぜひHPの方も覗いてみてください。

（学芸課／川島楨子）

ホームページを充実します



黒岩涙香——翻案探偵小説

高橋 正

涙香の翻案探偵小説は朝報社の米櫃で、かれの作品が載らない時は読者が半減。その人気の秘密にはそれなりの工夫があつた。『萬朝報』の紙面作りの三つの秘訣、簡単・明瞭・痛快をそつくり応用した。また、ネタ本を厳選、卓抜の語学力を駆使して、原書三千冊を読み破り、百に一冊ぐらいの面白いものを使つた。

テキストの訳し方も天衣無縫、妙味に欠ける箇所は改作したり、他の作品の部分をくつ付けたり。文飾は一切省き、ストーリーの面白さ、分かりやすさだけを心掛けた。外国の地名や人名も日本語の漢字に変えた。題名の付け方がまた実にうまい。『白髮鬼』『幽靈塔』『鉄仮面』など。

ヴィクトル・ユーゴーの『レ・ミゼラブル』の翻案小説『噫無情』は連載後出版された。涙香はその序『小引』で「若し我が日本に『レ・ミゼラブル』を翻訳する必要ありとせば、必ずや人力を以て社会に地獄を作り、男子は労働の為に健康を損し、女子は飢渴の為に徳操を失し、到る處に無知と貧苦との災害を存する今の時にある」。

なれ」と述べている。

『噫無情』にかぎらず、涙香の翻案小説は単なるエンターテイメント、娯楽小説の域にとどまらず、社会正義実現の世論を喚起する武器でもあつた。

追悼

与謝野晶子

名工の刃のあまた何ならん
(高知高専名誉教授)

君まさぬ世に鋭きものも無し



涙香が翻案し「萬朝報」に連載した小説の数々。
上:『鉄仮面』(明25~26)『白髮鬼』(明36)とその挿絵
下:『巖窟王』(明34~35)『噫無情』(明35~36)

資料受贈報告

『明治文学叢刊 政治小説研究上』
柳田泉著 春秋社刊
昭和10(1935)年5月 602頁 菊判

寄贈資料から



著者の柳田泉は青森県出身の文学研究者。坪内逍遙や内田魯庵、幸田露伴など明治の文学者たちに師事し、早稲田大学の文学部教授となりました。古書の膨大な収集と博覧強記、それらに裏打ちされた実証的な研究で知られ、明治文学研究者にとって未だ超えることのできない、峻厳に聳え立つ知の巨人才とも言ふべき人です。

文学館では、皆様の寄贈を活用し、高知の作家の魅力を紹介すべく活動しております。今後も当館事業にご理解ご協力賜れば幸いです。

(学芸課 川島禎子)

受贈報告

(令和2年5月~7月)敬称略

▼宮尾 環・宮尾登美子愛用の着物(他

▼嶋岡 晨・午前17号 午前社編刊

▼池内 了・「ふだん着の寺田寅彦

池内了著 平凡社刊

▼四宮義正・「徳島科学史雑誌No.38

▼山田 功・「教科書に掲載された寺田寅彦作品を読む」 山田功著 リリーブル出版刊

▼「新青年」研究会・「新青年」趣味

20号「新青年」趣味編集委員会編刊

▼高橋以登・「句集千鳥」 高橋以登著

▼橋尾直和・「安芸市奈比賀文化史

懇談会刊(他)

▼高知ベンクラブ・「高知文芸年鑑編集委員会編」 高知ベンクラブ刊

・ プ
・ ショップ
より

暦の上では9月
は「秋」になります
が、高知はまだ
暑さの厳しい日が
続いています。

今年は、コロナの影響で、夏の風物詩の「よさこい」や「花火大会」などが中止になつたり、子供達の夏休みが短くなつたり、夏らしいイベントがなく過ぎてしまい残念でした。

「ウルトラとくさつワールド 空想特撮大作戦」ウルトラマンと夢見る未来」展の開催中には、お子様から大人の方までたくさんのお客様にご来館いただき、ありがとうございました。

ショットでは、ウルトラマンやウルトラ怪獣のソフビ、「ウルトラエアーショット（空気鉄砲）」「ウルトラシューeingダーツ」「科学特捜隊流星ピンバッヂ」「キーホルダー アイスラッガー」など、好評を頂きました。

9月7日から改修工事のため休館となりますが、次回の企画展に向けて準備をし、また違った

商品をご用意して皆様のお越しをお待ちしております。

（総務事業課／
山崎幸乃）



作家が記したオリンピック

「より速く、より強く、より美しく」を目指して、古代から人々は心身を鍛え、一堂に会してその成果を競い合い、お互いを讃え合ってきた。

時を経て、1896年に始

まった近代オリンピック。その歴史が、現在、当館の企画コーナーで紹介されている。これをたどると、近代オリンピックが、世界的な戦争、経済恐慌といった困難な状況を乗り越え、「平和の祭典」として今に至っていることがうかがえる。1964年の前回東京大会も、日本の復興が世界に発信された大会となつた。

さて、この大会を巡つては、日本の著名な作家たちが観戦の体験を文章に綴つていて、一例を紹介すると、「日本選手の体操は、歌舞伎の名優の踊りを見るようである。決めるべきところで、静の美しさを十分に見せる」とその「静

止する姿」への感動を記した曾

野綾子、「一瞬、舞い上がる肉体、

しなるポール、落ちるバーへ中

略々円盤はきらめきながら飛

んできて芝の上で弾む」と陸上

競技の「瞬時」を一つの動画の

ように記した三島由紀夫、「たっ

た一人の選手がその国の旗を

かざして入場する姿へ中略々

彼はその孤独に耐えて母国の

名誉を守ろうとしている」と、

開会式で見せた選手の「矜持」

を熱く記した石川達三など。こ

うした作家の言葉は、いまもな

お臨場感を持ち、その情景が目

の前に浮かんでくる。

例年にも増して暑さが厳しかった今年の夏。夏休み期間中の高知市内各小学校放課後児童クラブにより依頼を受けて、当館カルチャーサポーターと一緒に「出張おはなしキャラバン」に出かけてきました。

芝居の実演や絵本の読みきかせなどをを行うもの

で、カルチャーサポーターの存在が欠かせません。

今年は新型コロナウイルスの影響によって学校

の夏休みが短縮されたこともあり、短い期間に

ぎゅっと詰まつた活動になりました。

当日は、児童クラブの皆さんに安心して楽しんでいたくために、マスクの着用に加えてアクリルパーテーションの設置やマイクの使用など対策を講じて本番に臨みましたが、各児童クラブでも、間隔を空けての着席や換気の徹底、こまめな水分補給など様々な側面において対策がとられていました。

さて、そんな中、暑さも吹き飛ぶくらいに元気あふれる児童の皆さんに迎えてもらい、そのパワーをもらって、私たちおとなも元気倍増! カルチャーサポーターそれぞれの豊かな表現と魅力あふれる熱演により、児童クラブの皆さんも時に驚いたり笑つたり歓声を上げながら夢中になつて楽しんでもらえたよう

で、新たな方向性を摸索しつつも充実した「出張おはなしキャラバン」となりました。

夏休み 出張おはなし キャラバン

レポート



紙芝居実演の様子

やむを得ず来年に延期された2020東京大会。さまざまな場面で多くの選手が見せるであろう姿を、次回、作家たちはどのように記するのだろうか、期待が持たれるところである。

演により、児童クラブの皆さんも時に驚いたり笑つたり歓声を上げながら夢中になつて楽しんでもらえたようで、新たな方向性を摸索しつつも充実した「出張おはなしキャラバン」となりました。

（学芸課／道脇夕加）

高知県立文学館 カレンダー

お知らせ



9月7日(月)～
12月26日(土)は

改修工事のため
臨時休館いたします。

※令和3年1月2日(土)より開館いたします。



企画展案内

「百花繚乱～高知の女性文学史～」展



女流文学者会 昭和26年頃、木挽町 宇野千代宅にて

会期 令和3(2021)年1月16日(土)～3月21日(日)
会場 高知県立文学館 2階企画展示室
開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分)
観覧料 一般400円(常設展含む)、高知県・高知市長寿手帳等お持ちの方
・高校生以下は無料

思想や文学をはじめ、西欧の様々な世界観が日本に導入された近代以降、女性文学者たちは、次々と文学の扉を開いていきます。高知でも、北見志保子をはじめ、小山いと子、大原富枝、倉橋由美子、宮尾登美子、藤原絢沙子。また、平成になると、坂東真砂子、畠中恵、有川ひろ、中脇初枝…。彼女たちは、時代とともに、中央文壇で独自のジャンルを確立していました。

本展では、両親が高知出身の大塚楠緒子や、これまで紹介できなかった近代以降の女性作家の活躍も踏まえながら、高知の女性文学の流れをご紹介します。

※新型コロナウィルス感染拡大防止のため、展示および関連イベントは中止・内容を変更する場合があります。

みなさまのご協力をお願いいたします

体調不良の時には来館をご遠慮ください。入口やトイレに消毒用アルコールを設置しておりますのでご利用ください。
咳エチケットや、マスクの着用、人が多い場所では会話を控える等のご協力をお願いします。観覧の際は、ほかのお客様と十分な距離をとってご観覧ください。展覧会混雑時には入館をお待ちいただく場合があります。職員はマスクをして対応いたします。
お客様に安全に観覧いただくため、ご不便をおかけしますが、ご理解ご協力下さいようお願い申し上げます。

イベント情報

文学 マイスター 講座

令和2年度

第6回

令和3年1月23日(土)午後2時～
野球の歴史と清岡卓行

講師 井上 裕太 先生(公益財団法人野球殿堂博物館 学芸員)

場所 文学館1階ホール

参加無料・事前に申し込みが必要です。

利用案内

開館時間 午前9時～午後5時(入館は、午後4時半まで)

休館日 年末年始(12月27日～1月1日)を除き、無休。

※その他メンテナンス等で臨時休館することもあります。

観覧料 一般370円 企画展はそれぞれ異なります。

20名以上の団体は2割引。高校生以下無料。

高知県・高知市長寿手帳、身体障害者手帳、療育手帳、

精神障害者保健福祉手帳、戦傷病手帳又は被爆者

健康手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料です。

駐車場 なし。ただし近辺に有料駐車場があります。

附帯設備 ホール、ミュージアムショップ、こどものぶんがく室、

茶室「慶雲庵」

貸出施設 企画展示室、ホール、茶室

交通のご案内



- 高知龍馬空港より空港連絡バス(県庁前行)「高知城前」下車、北へ徒歩5分またはJR高知駅「北はりまや橋」下車、徒歩20分
- JR高知駅下車、徒歩20分(または連絡バス・路面電車を利用)
- 路面電車「高知城前」下車、北へ徒歩5分
- バス停「高知城前」下車、北へ徒歩5分



〒780-0850
高知市丸ノ内1丁目1-20
電話 088-822-0231
FAX 088-871-7857

高知県立文学館 検索

